

# データ入稿の手引き〔配布版〕

---

For sending manuscripts to a printing office

## 〔Adobe Illustrator編〕



感謝を込めて情報発信喜びと感動を創造する

**晃南印刷株式会社**

## 入稿対応バージョン

- ◆お客様がMac OS 9以下環境  
Version5.5、Version8、Version10  
※Version9作成データの場合は10にて出力作業
- ◆お客様がMac OS X環境  
Version10、CS、CS2
- ◆お客様がWindows OS環境  
CS2

## データ作成時の基本

- ◆ひとつのファイルには[ひとつのデータ] [c\\_point01](#)  
例:hogeというフレイヤーを印刷するためのデータ(表裏有り)  
[誤]  
hoge.epsファイルに表面と裏面を並べて作成  
[正]  
表面用ファイル[hoge\_omote.eps]  
裏面用ファイル[hoge\_ura.eps]  
という[ふたつのファイル]
- ◆カラーモードは[CMYK] [c\\_point02](#)
- ◆仕上りサイズで[トンボ]を作成 [c\\_point03](#)
- ◆[トンボ]は必ず[トリムマーク]で作成 [c\\_point04](#)
- ◆[トンボ]の[線幅]は0.11mm(0.3pt) [c\\_point05](#)
- ◆[トンボ]の色指定は[レジストレーション]を使わない [c\\_point06](#)  
例:プロセス4C  
→C100%+M100%+Y100%+BL100%  
2色印刷物(分版:プロセスC版+BL版)  
→C100%+M0%+Y0%+BL100%
- ◆裁ち落としがある場合は[塗り足し(ドブ)]を作成 [c\\_point07](#)
- ◆[スポットカラー]は[CMYK]に[変換]する [c\\_point08](#)  
※[DIC COLOR]や[PANTONE]等が[スポットカラー]
- ◆[スウォッチカラー]は[CMYK]に[変換]する [c\\_point09](#)
- ◆[CMYK]と[グレースケール]の混在はしない [c\\_point10](#)
- ◆[線]に[塗り]の設定は絶対にしない [c\\_point11](#)
- ◆[オーバープリント]の設定は的様に [c\\_point12](#)  
注)当社では基本的に[BL100%]はRIP上で[オーバープリント]になるように設定されています。[BL100%]以外での[オーバープリント]や[BL100%]での[オーバープリント無し]は制作者で的様に設定し、出力見本に指示してください。また、[オーバープリント]を設定した場合は、[配置画像の保存形式]で重要な注意点がありますので、[配置する画像に関して]の項に従ってください。【Version9以降に加わった[オーバープリントプレビュー]を利用すると確認しやすい】
- ◆不要な[オブジェクト]は置かない [c\\_point13](#)
- ◆[孤立点][余分なポイント]は必ず削除 [c\\_point14](#)
- ◆配置する画像は[リンク] [c\\_point15](#)  
※[Version10]で透明効果を使っている場合は[埋め込み]  
※画像として[QRコード]を作成され、それを配置する場合、  
[モノクロ2階調][画像解像度]は使用サイズで[1200ppi][保

存形式:TIFF]

- ◆[保存形式]は[EPS] [c\\_point16](#)  
[プレビュー]はモノクロ1C物は[1bit/Macintosh]。それ以外は[8bit/Macintosh]。  
[ダウンロード用のフォント]チェック無し。  
[配置した画像を含む]チェック。  
[ポストスクリプトレベル]は[レベル2]
- ◆保存時の[ファイル名]は必ず[半角英数小文字(Win:8文字以内、Mac:16文字以内)]+拡張子[.eps] [c\\_point17](#)
- ◆Version8の注意点【重要】 [c\\_point18](#)  
★[アウトプット値]を必ず[800]に。  
プルダウン[ウインドウ]→[属性]
- ◆Version10以降の注意点【重要】 [c\\_point19](#)  
★[出力解像度]を[800dpi]、[グラデーションメッシュの解像度]を[350ppi]。  
プルダウン[ファイル]→[書類設定]→[プリント・データ書き出し]  
★[オブジェクト]や[レイヤー]に[透明効果]を使った場合は[ラスタライズ/ベクトル設定]の[スライダ]を必ず[ベクトル側]へ。  
プルダウン[ファイル]→[書類設定]→[透明]内の[分割設定][ラスタライズ/ベクトル設定]  
★[透明効果]を使った場合は[透明効果]の影響を受ける画像を[埋め込み]に。(エンコード:バイナリ)  
★CS2にて[透明効果]を使った場合は[透明設定]を[高解像度]に。  
プルダウン[ファイル]→[ドキュメント設定]→[透明]内の[書き出しとクリップボードにおける分割・統合]

## 配置する画像に関して

Adobe Photoshop編も参照ください。

- ◆CMYK、グレースケール、モノクロ2階調のみ [c\\_point20](#)
- ◆[カラーモード]は制作物(印刷物)に適したモードにする [c\\_point21](#)
- ◆[画像解像度]は[使用サイズ]で下記の解像度で [c\\_point22](#)  
CMYK、グレースケール:350ppi  
モノクロ2階調:1200ppi
- ◆[保存形式]は[EPS](CMYK、グレースケール)、[TIFF](モノクロ2階調) [c\\_point23](#)
- ◆保存時の[ファイル名]は必ず[半角英数小文字(Win:8文字以内、Mac:16文字以内)]+拡張子[.epsもしくは.tif] [c\\_point24](#)
- ◆保存時の注意
- TIFF形式 [c\\_point25](#)  
[バイトデータの順序](Photoshop Version5)[バイト順序](Photoshop Version7以降)は[Macintosh]  
[LZW圧縮](Photoshop Version5)はチェックしない  
[画像圧縮](Photoshop Version7以降)は[なし]
- EPS形式 [c\\_point26](#)  
[プレビュー]Macintosh(8bit/pixels)  
※モノクロ2階調ではMacintosh(1bit/pixels)  
[エンコード]JPEG最高画質

※レイアウトソフト上で〔オーバープリント〕を手動で設定：バイナリで保存。

〔その他のオプション〕チェックなし

※モノクロ2階調では必要に応じて〔白色部分を透明として扱う〕のチェックを入れる。

■PSD形式 (Version10以降) [c\\_point27](#)

※PSD形式も可能ですが、ファイルサイズが大きくなるため特に必要とされる場合以外はEPS形式で。

■〔カラープロファイル〕は埋め込まない [c\\_point28](#)

## 入稿用データに関して

- ◆〔グループ化〕を〔解除〕する [c\\_point29](#)
- ◆〔レイヤー〕を〔統合〕する [c\\_point30](#)
- ◆〔ガイドライン〕を〔削除〕する [c\\_point31](#)
- ◆〔不可視オブジェクト〕を必ず〔可視〕にする [c\\_point32](#)
- ◆使用する〔画像〕が〔同一フォルダ内〕に [c\\_point33](#)
- ◆〔画像〕の〔リンク〕の確認 [c\\_point34](#)
- ◆〔フォント〕は全て〔アウトライン化〕する [c\\_point35](#)

## 入稿時の注意点

- ◆ひとつの〔フォルダ〕に必要なファイルをまとめる (不要なファイルは絶対に入れない) [c\\_point36](#)
  - ※〔フォルダ名〕も〔半角英数小文字 (Win: 8文字以内、Mac: 16文字以内)〕
- ◆プリントアウト、PDF等の〔見本〕を必ず添える [c\\_point37](#)
  - ※見本は、あくまで〔レイアウト〕や〔化け〕を確認するためだけです。〔色見本〕としては扱いません。
  - ※〔色校正紙 (プルーフ)〕 (デジコン、コンセンサス、本紙校正紙等々) がある場合はそちらも添えてください。印刷時の〔色の判断〕は〔色校正紙 (プルーフ)〕を用いて行います。

## メール添付やインターネットサービスを利用しての入稿での注意点

- ◆必ず〔フォルダ〕に必要な〔ファイル〕をまとめ、〔圧縮〕 (sitもしくはzip) する [c\\_point38](#)
- ◆〔添付ファイル名〕や〔圧縮ファイル名〕に日本語は使わない。必ず〔半角英数小文字 (Win: 8文字以内、Mac: 16文字以内)〕  
[c\\_point39](#)
- ◆ひとつの〔メール〕に複数のファイルを添付しない [c\\_point40](#)
- ◆〔Illustrator〕の〔ファイル〕は圧縮しないままメールに添付すると〔壊れる〕可能性が非常に高い。ですので、〔Illustrator〕の〔ファイル〕だけを添付する際でも、必ず〔フォルダ〕に入れ、その〔フォルダ〕を圧縮してから添付ください [c\\_point41](#)

## Check List Adobe Illustrator

### データ作成時の基本 チェック項目

ひとつのファイルには〔ひとつのデータ〕 c_point01	
カラーモードは〔CMYK〕 c_point02	
仕上りサイズで〔トンボ〕を作成 c_point03	
〔トンボ〕は必ず〔トリムマーク〕で作成 c_point04	
〔トンボ〕の〔線幅〕は0.11mm(0.3pt) c_point05	
〔トンボ〕の色指定は〔レジストレーション〕を使わない c_point06	
裁ち落としがある場合は〔塗り足し(ドブ)〕を作成 c_point07	
〔スポットカラー〕は〔CMYK〕に〔変換〕する c_point08	
〔スウォッチカラー〕は〔CMYK〕に〔変換〕する c_point09	
〔CMYK〕と〔グレースケール〕の混在はしない c_point10	
〔線〕に〔塗り〕の設定は絶対にしない c_point11	
〔オーバープリント〕の設定は的確に c_point12	
不要な〔オブジェクト〕は置かない c_point13	
〔孤立点〕〔余分なポイント〕は必ず削除 c_point14	
配置する画像は〔リンク〕 c_point15	
〔保存形式〕は〔EPS〕 c_point16	
保存時の〔ファイル名〕は必ず〔半角英数小文字(Win:8文字以内、Mac:16文字以内)〕+拡張子〔.eps〕 c_point17	
Version8の注意点【重要】 c_point18	
Version10以降の注意点【重要】 c_point19	
<b>配置する画像に関して チェック項目</b>	
CMYK、グレースケール、モノクロ2階調のみ c_point20	
〔カラーモード〕は制作物(印刷物)に適したモードにする c_point21	
〔画像解像度〕は〔使用サイズ〕で下記の解像度で c_point22	
〔保存形式〕は〔EPS〕(CMYK、グレースケール)、〔TIFF〕(モノク ロ2階調) c_point23	
保存時の〔ファイル名〕は必ず〔半角英数小文字(Win:8文字以内、Mac:16文字以内)〕+拡張子〔.epsもしくは.tif〕 c_point24	
保存時の注意 TIFF形式 c_point25	
保存時の注意 EPS形式 c_point26	
保存時の注意 PSD形式(Version10以降) c_point27	
保存時の注意 〔カラープロファイル〕は埋め込まない c_point28	
<b>入稿用データに関して チェック項目</b>	
〔グループ化〕を〔解除〕する c_point29	
〔レイヤー〕を〔統合〕する c_point30	
〔ガイドライン〕を〔削除〕する c_point31	
〔不可視オブジェクト〕を必ず〔可視〕にする c_point32	
使用する〔画像〕が〔同一フォルダ内〕に c_point33	
〔画像〕の〔リンク〕の確認 c_point34	
〔フォント〕は全て〔アウトライン化〕する c_point35	

### 入稿時の注意点 チェック項目

ひとつの〔フォルダ〕に必要なファイルをまとめる(不要なファイルは絶対に入れない) c_point36	
プリントアウト、PDF等の〔見本〕を必ず添える c_point37	
<b>メール添付やインターネットサービスを利用しての入稿での注意点 チェック項目</b>	
必ず〔フォルダ〕に必要な〔ファイル〕をまとめ、〔圧縮〕(sitもしくはzip)する c_point38	
〔添付ファイル名〕や〔圧縮ファイル名〕に日本語は使わない。必ず〔半角英数小文字(Win:8文字以内、Mac:16文字以内)〕 c_point39	
ひとつの〔メール〕に複数のファイルを添付しない c_point40	
〔Illustrator〕の〔ファイル〕は圧縮しないままメールに添付すると〔壊れる〕可能性が非常に高い。〔Illustrator〕の〔ファイル〕だけを添付する際でも、必ず〔フォルダ〕に入れ、その〔フォルダ〕を圧縮してから添付 c_point41	